

Frequency of examinations for cancer among patient

メタデータ	言語: English 出版者: 公開日: 2017-03-20 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 高橋, 雄一 メールアドレス: 所属:
URL	https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2001951

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 1782 号

Status of reviewing for cancer among patients with lifestyle-related diseases

(生活習慣病を有する外来通院中の患者における、悪性疾患を評価するための検査の実施状況とその関連要因の検討)

高橋 雄一 (たかはし ゆういち)

博士 (医学)

論文審査結果の要旨

本論文は、生活習慣病を有する外来患者で、悪性疾患を評価する検査施行率の状況を調査し、検査の施行に関係する因子を初めて明らかにした臨床的に意義ある論文である。

本研究は、外来通院中の生活習慣病患者における、悪性疾患の有無を評価するための検査の施行率とその関連要因を明らかにする事を目的とした。

2011年1月1日から2013年12月31日の間に、順天堂大学医学部附属順天堂医院の糖尿病・内分泌内科、循環器内科、総合診療科を受診した生活習慣病（高血圧、糖尿病、脂質異常症、および高尿酸血症）を有する外来患者を対象とした。保険適応内の悪性疾患の有無を評価する検査は、肺癌に対して胸部 X 線とコンピュータ断層撮影（胸部を含めたCT）、胃癌に対して上部消化管 X 線造影（GI）と上部消化管内視鏡検査、大腸癌に対して便潜血検査と下部消化管内視鏡検査と定義した。対象を年齢と生活習慣病の数で層別化し、検査施行率の関係をコクラン・アーミテージ傾向検定を用いて評価し、次に多変量ロジスティック回帰分析で検査施行の予測因子を推測した。

27,719人の外来患者（平均年齢:63歳、男性:60%）を調査した。このうち78%は糖尿病、55%は脂質異常症、64%は高血圧症、17%は高尿酸血症/痛風を合併していた。検査施行率：胸部 X 線は54%、コンピュータ断層撮影（胸部を含めたCT）は11%であった。上部消化管 X 線造影（GI）は0.1%、上部消化管内視鏡検査は4%であった。便潜血検査は7%、下部消化管内視鏡検査は2%であった。また、年齢や生活習慣病数は検査施行の関連要因であった。

本研究結果から悪性疾患の有無を評価する検査率が低く、年齢や生活習慣病数の増加に伴い検査実施率が上昇する事が明らかになった。

よって、本論文は博士（医学）の学位を授与するに値するものと判定した。